

衆議院議員

大串まさき

<https://m-ogushi.com> 国政報告



- ✔ 石破新総裁が誕生
- ✔ 新たな時代に向けた取組
- ✔ 視察報告：離島における医療・介護

ガロック VOL. **42**

大串まさき プロフィール

元 デジタル副大臣 兼 内閣府副大臣
元 経済産業大臣政務官 元 自民党副幹事長

- ▶ 昭和 41 年生まれ。報徳学園高卒。東北大学大学院修了。IH1、松下政経塾を経てJAISTにて博士（知識科学）を取得。大学准教授の後に現職（4期）。
- ▶ 社会保障・産業政策・デジタル改革等の分野に注力。
- ▶ 家族は妻と2人暮らし+保護猫1匹（三毛猫）。趣味は釣り・絵画・多肉植物など。スポーツは高校まで剣道一筋。好きな食べ物はカレーとラーメン。座右の銘は「威ありて猛からず」。

動画を配信中！

政策の解説からプライベートまで気軽に見られる動画を「X」「Instagram」「YouTube」で配信しています。右のQRコードからフォローしてください。



お問い合わせ先

自民党の党员になって応援して頂ける方、ボランティアとしてお手伝い頂ける方、国政報告会への参加を希望される方など、お問い合わせは下記までお願い致します。

〒664 兵庫県伊丹市中央 1-2-6
-0851 グランドハイツコーワ 2-12
TEL:072-773-7601
FAX:072-773-7602

✉ info@m-ogushi.com



石破新総裁が誕生

先の自民党総裁選挙におきまして、石破茂新総裁が誕生しました。9人の候補が競う異例の総裁選挙でしたが、私が支援していた小泉進次郎候補は、議員票では1位、党員票で3位、その結果、総合3位となり決選投票に進むことはできませんでした。ご支援を頂いた皆さん、ありがとうございました。この経験を生かしながら、また、総裁選挙を通じて得たさまざまな知見を、今後の政治活動に役立ててまいりたいと思います。

決選投票では高市早苗候補と石破茂候補の2人の闘いとなり、215票対194票という僅差で石破茂候補が勝利し、第28代総裁に選ばれました。

長期間にわたる論戦を通じて、改めて自民党の人材の層の厚さが垣間見えた総裁選挙でした。どの候補も、しっかりとした政策を堂々と訴え、日本が抱える課題や、それに対する政策への理解も深まったのではないかと思います。特に、多くの党員から支持を得た高市早苗候補の訴えのように、より強い日本、強い外交を期待する声が多かったことも、しっかり受け止めたいと思います。



小泉進次郎
ご支援ありがとうございました。私も選対事務局で支援しました。



決選投票の末、石破茂氏が第28代総裁に選出されました。



9人の候補による総裁選でしたが、終わればノーサイドで一致団結します。

いずれにしても、総裁選挙が終わればノーサイドで、自民党は一丸となって新しい政治をつくっていきます。この時点では、私もどのような立場で仕事をするかは決まっておりませんが、党改革が進んだこともあり、これからの人事は派閥順送りの仕組みからは脱却して、議員それぞれの希望だけでなく、これまでどのような取り組みや経験をしてきたかなど実力が評価される仕組みに変わりました。どのような立場でもしっかりと職責を果たしつつ、政策形成に関わった経験を最大限に生かして、その務めを果たして参ります。引き続き地域のため、日本のためにしっかりと働きます。



石破新総裁の下で一丸となって頑張ります。

新たな時代に向けた取組

新しい総裁が決まり自民党の体制も大きく変わることになります。これまでの古い体質から脱却して**新しい自民党**を一丸となつてつくって参ります。

私自身も地元の方のご支援により、2012年の初当選以来4期12年、衆議院議員として全力で仕事をさせて頂きました。デジタル副大臣や経済産業大臣政務官といった政府の仕事をはじめ、自民党では副幹事長や厚生労働部会長などの要職を務め、多方面で、この国のために尽くして参りました。これまでの経験をいかしつつ、さらなる高い次元へと活動の幅を広げ、この国の発展に尽くす覚悟です。

しかし、今の自民党は国民からの信頼を失っています。私自身は初当選以来、派閥には属さない**無派閥議員**として活動することで、常にお金の掛からない政治を心がけておりました。しかし、今般の政治資金を巡る問題では、同僚議員達の失態に同じ党の議員として、その責任を重く感じています。

そこで、まずは**政治改革**から進めて、国民から信頼され、納得してもらえるクリーンな政治風土をつくりまします。お金の掛かる古い政治からは脱却して、合理的で効率的な新しい政治へと刷新します。また派閥順送りの人事ではなく、真に実力のある人材を適材適所で活用して真の改革を加速します。そして、強い日本を取り戻すために、以下の5つの政策を実現すべく全力で取り組んで参ります。

①デフレ脱却と強靱な経済の実現

デフレからの脱却を目指して、インフレに見合う経済成長と賃上げ、そして新たな産業の創出を政策的に後押しして強靱な経済を実現。日本を再生します。

②世界に貢献する外交・安全保障

陸・海・空だけでなくさまざまな領域に拡大する安全保障上の脅威。防衛力をさらに強化しつつ、世界に貢献する外交を同志国との連携を通じて実現します。

③安心をつくる社会保障制度改革

自民党の厚生労働部会長の経験を生かして、病気や障害があっても、身寄りがなくとも、安心して暮らせる社会保障制度改革を進めます。

④未来を拓く教育・科学技術政策

技術者や大学教員などの社会経験をもとに、経済産業大臣政務官で取り組んだ課題をさらに発展させ、教育改革や科学技術政策を推進して未来を拓きます。

⑤デジタル化による利便性の向上

デジタル副大臣で取り組んだ様々な規制改革をさらに加速させて、利便性と付加価値の高い社会をつくり、誰一人取り残されないデジタル化を推進します。

これまで先人から受け継いできた伝統や経験を生かしながら、**穏健的・漸進的な改革**を着実に進めます。大きな時代の変化を見据え、未来への責任を果たす上でも、その歩みを止めず行動します。今がまさに正念場。全力で挑戦し続けます。

視察報告：離島における医療・介護

令和6年9月3日から、衆議院の厚生労働委員会のメンバーで長崎県の視察を実施しました。目的は**離島における医療・介護**等の実情調査です。長崎大学病院や五島列島にある五島市にも足を運んで離島特有の課題を伺って参りました。離島医療の課題のひとつに、先進的な医療サービスを直ちに受けられないという点があります。以前から医師や診療科の地域偏在は大きな課題となつていますが、離島において、それが顕著になります。

長崎大学病院と五島中央病院では、この課題に対応するため協定を結んで**遠隔医療サービス**を提供しています。離島の医療現場と大学病院をオンラインで繋いで、専門性の高い大学病院の医師が、離島の医師にアドバイスをしながら診療の支援をする仕組みです。これは通信技術の進歩や、高精細の画像が遅延なく共有できる環境が整ったことによって実現されました。特に皮膚科など視覚情報が重要な診療科で威力を発揮しているとのことでした。ただし、大学病院側の医師はボランティアでの対応となります。これは診療報酬の制度的な課題でもあるので、対応を検討していきたいと思ひます。

離島内で活用されている**モバイルクリニック**（医療 MaaS）も視察しました。通院が困難な患者の自宅に看護師等が車で訪問して、その中でオンライン診療を受ける仕組みです。車に搭載された検査機器から得られたデータをもとに、遠隔で医師が診察します。訪問診療と異なり、医師の移動時間を他の患者の診察に使えるため、効率的な医療サービスが提供できます。ほかにドローンによる医薬品の配送サービスや、離島の訪問看護サービス事業所、人手不足がさらに深刻な離島の介護老人福祉施設なども訪問して、さまざまな課題を伺いました。それらは離島だけの課題ではなく、近い将来、全国で考えるべき課題です。今回の視察で明らかになった課題などは、しっかりと政策で対応していきます。



遠隔医療サービスの実際



モバイルクリニックの車両



医薬品を運ぶドローン

編集後記

今回の総裁選挙では、陣営の中心で政策の統括担当の仕事をしていました。衆議院の小選挙区の選挙とは違って、多くのスタッフと連携しつつ、全国レベルで多様なメディアも使いながら候補者の言葉ひとつひとつをきめ細かく

作り上げる作業です。また、これまでの自民党の政策や他陣営の政策についても勉強する良い機会となりました。結局、外交など重要な政策は、誰が総理になっても継続されていくことが大切なので、政治の安定性が重要だと改めて理解しました。私も頑張ります。